

## 税とわたし

沖縄県立名護高等学校 三年 木村 柚葉

私たちの生活の中で税という言葉を耳にすることは多いが、実際にそれがどのように使われているのかを意識する機会は少ないようだ。けれども、学校で学んでいる時や家族と病院に行った時、また道路や公園を利用している時など、私たちは常に税の恩恵を受けて暮らしている。今回あらためて税の役割を考えると、それは私たちの生活を支える「土台」のような存在であることに気づいた。例えば学校では、私たちが使う教科書や施設の整備に税が使われている。毎日当たり前のように受けている授業も、もし税がなければ安心して学ぶ環境は整わなかつただろう。地域の道路や橋も同じで、税があるからこそ安全に通学ができる、家族で出かけることもできる。さらに病院や福祉の分野でも税は大切な役割を果たしている。高齢者が安心して医療を受けられるのも、災害時に避難所が運営されるのも、すべて税によって支えられている。このように考えると、税は「自分のため」だけでなく「社会全体のため」に存在していることが分かる。一人ひとりが納める税は小さいものかもしれない。しかし多くの人が協力し合うことで大きな力となり、国や地域を支えていく。その姿は、まるで会費を出し合って運営する「みんなの会」のようだと感じた。税は決して「取られるもの」ではなく「みんなで未来を守るためのもの」なのだと思う。最近のニュースでは減税が話題になっている。物価が上がり、家計が苦しくなっている中で税の負担を軽くすることは、多くの人にとって助けになるだろうし、経済を活性化する効果もあると言われている。しかしその一方で税収が減れば教育や福祉、防災などに使えるお金も減ってしまう。減税は私たちの暮らしを一時的に楽にしてくれるが、同時に将来の社会を支える力を弱める可能性もある。私はニュースを見て、税を「減らすかどうか」だけでなく、「どうすればみんなの暮らしと未来を両立できるか」を考えることが大切だと感じた。特に沖縄のように観光や自然に支えられた地域では、観光地の整備や環境保護、災害復旧などにも税が使われている。数年前の台風で被害を受けた地域が復興していく姿を見たとき、税の存在が人々の生活を守る力になっていることを実感した。私は将来地元で飲食の仕事をしたいと考えているが、その際にも税による支援や制度が関わってくるだろう。地域を支えることと税は切り離せない関係にあるのだ。やがて私自身も働き、税を納める立場になる。その時、ただ義務だから支払うのではなく、社会をより良くするための大切な役割を果たしていることを意識してみたい。そして自分が納める税が、次の世代の学びや暮らしを支えていくのだと考えると、未来に希望をつなぐ行為のように思えてくる。税の意義はみんなで支え合うこと、役割は安心できる社会を築くことだと私は考える。これからはそのことを忘れずに、社会の一員として責任を果たしていきたい。